

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = NZ中銀は利上げに踏み切るか？

2021年8月16日

18日にNZ中銀金融政策理事会の結果が発表されます。ワクチン接種の進展などをうけて世界的に行動制限の緩和が目立つ中、物価の上昇が各地で進行しており、ブラジルやメキシコなどの新興国では利上げに踏み切る動きが出ています。主要国の中では利上げに踏み切る動きはまだ先になりますが、先進国の一つで、FX取引でも重要な位置を占めているNZが先陣を切って利上げに向かいそうです。

前回7月14日のNZ中銀金融政策理事会では、新型コロナの感染拡大を受けてこれまで実施してきたLSAP(大規模資産購入プログラム)について、新規の資産購入を7月23日までに停止すると発表しました。

声明ではデフレと高失業率の深刻な下向きリスクが薄れたと状況の改善を示し、2020年に導入した金融政策による支援のかなりの水準を早期に縮小できるとして、金融引き締めに向かう姿勢をしっかりと示しました。

また、物価について、今後著しい経済ショックをさらに受けることがなければ、生産能力の回復や労働不足の解消を受けて、より持続的な物価上昇圧力が増大すると警戒感を示しています。

前回理事会の2日後に発表された第2四半期のNZ消費者物価指数は前年比+3.3%と、第1四半期の+1.5%から一気に上昇。事前予想の+2.7%と比べてもかなり高い水準となりました。今月4日に発表された第2四半期雇用統計では、失業率が第1四半期の4.6%から4.0%に一気に低下。事前予想の4.4%も大きく下回りました。また雇用者数も予想を超える伸びとなっています。

こうした状況から、今回の理事会では0.25%の利上げが見込まれています。ただ、見通しはある程度分かれています。経済的な結びつきも強い隣国豪州でデルタ株による新型コロナの感染拡大が広がり、最大都市シドニーを含むNSW州を中心としたロックダウンが継続中に、4月に開始した豪州とNZの隔離なし相互往来「トラベルバブル」についてもNSW州とは停止中となっています。世界的な感染拡大の加速を受けた需要の減退懸念もあり、今回の理事会での利上げはいったん見送るのではとの見方が一部で残っている状況です。

一方でより強気な見方も根強いです。物価の上昇が著しい中、今回の理事会での利上げだけでは不十分という見方が強く、市場では年内複数回の利上げを見込む動きが広がっています。利上げを実施したうえで、声明などで今後の追加利上げに前向きな姿勢を示してくる可能性が十分あります（ごく一部ですが今回0.50%の利上げに踏み切るという見通しもあります）。

こうした動きはNZドルにとって大きなサポート材料となります。NZドルは対ドルで0.7000を挟んでの振幅が続いていますが、今後の力強い利上げサイクルへの期待感から、NZドル買いの流れが強まる可能性も。年後半は、今年2月に付けた0.74台後半にむけた上昇基調も期待されるところです。

米国の材料としては、17日の米小売売上高(7月)と18日の米FOMC議事録(7月27日28日開催分)が注目されています。

6月の米小売売上高は前月比+0.6%と、事前予想の-0.3%に反して売り上げが増加しました。行動制限緩和を受けてフードサービスが前月比+2.3%と全体を支える形に。総合小売りやガソリンスタンド売上も伸びていました。

一方でサプライチェーン問題もあって供給制約のある自動車及び同部品の減少が目立っています。

今回は-0.2%と減少見通しになっています。前回やや強かった分の反動が出るとみられます。行動制限緩和の影響を受けてフードサービスなどが続伸し、前回同様にプラス圏を維持するようだと、米個人消費への期待感からドル買いが入る可能性があります。

FOMC議事録では、早期のテーパリング期待が広がる中で、どこまで議論が深まっていたのかなどが注目されるどころです。物価上昇が顕著となる中で、地区連銀総裁などからどこまで警戒感が示されていたのかなども注目されるどころ。内容次第で今月のジャクソンホール会議での利上げ示唆期待が強まるとドル買いが一気に強まる可能性も。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。